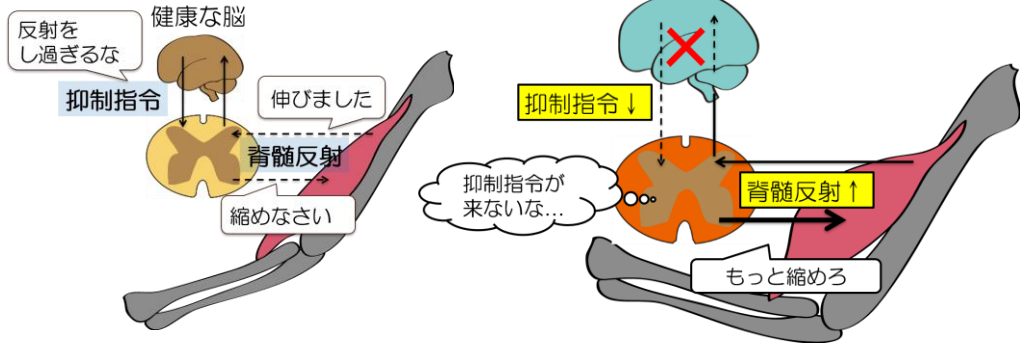


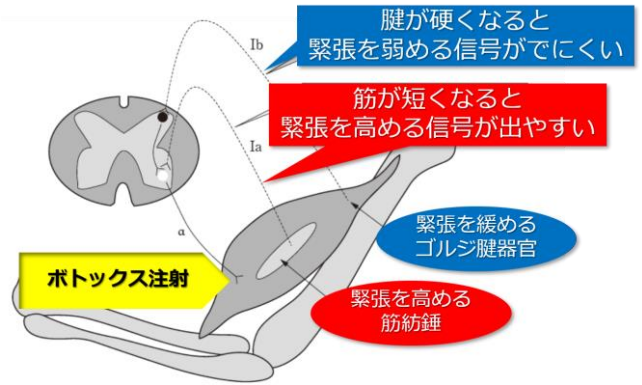
# ボツリヌス療法(ボトックス注射)



筋肉はもともと、伸ばされると収縮しようとする働きを持っています。これは「伸張反射」と呼ばれ、我々の体を急なトラブルから防御したり、体勢の変化に対して脳を使わずにも自然な調整ができるようにする大切なシステムです。しかし、この伸張反射が効きすぎると動きはぎくしゃくしてしまいます。そこで脳はこの伸張反射を抑制しています。つまり脳は「今から動かすからその伸張反射は抑えめにして」と命令を出しています。脳や脊髄に損傷を受けると、運動指令が届きにくだけでなく、この伸張反射を抑制する指令も届きにくくなるため、勝手に腕が曲がったり足が突っ張ったりします。



更に問題なのは、麻痺などで手足を使わないと筋肉は短く硬くなってしまいます。そうなってしまうと伸張反射の感度が上がり、ちょっと伸ばされただけでもすぐ反応してしまうようになります。そのような状態の手足は使いにくいですから、不使用から更に筋は短く硬くなるという悪循環にはまりかねません。しかも例えストレッチを頑張っても「伸ばせば縮む」反射が亢進しているのですから、効率的なストレッチはできません。ボツリヌス療法(ボトックス注射)は、その強くなりすぎた伸張反射を強制的に弱めることができる治療です。



注射した筋肉の伸張反射のみを弱めることができます。つまり飲み薬のように全身に効かないため、麻痺がない手足には全く影響が出ません。しかも効果は数ヵ月でなくなりますので、元の状態に戻すことも可能です。



元に戻るなら治療にならないのでは？いいえ、この元に戻るこそ最大のメリットです。実は薬が効いている間は、注射された筋肉の力は低下してしまいます。しかし伸張反射が弱まっているため効率的にストレッチができます。つまり、薬が効いている数ヵ月にしっかり筋肉を伸ばし柔らかくしてやれば、効果がなくなった時には伸張反射は起こりづらく、しかも力は元に戻るという最良の状態になるのです。詳しくは状態を診察させていただいてご説明しますのでお気軽に外来にご相談下さい。